

別表1 本年度（令和2年度）の学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒の安全・安心な学校生活を支えるための環境整備と実践的教育を充実する。 2 児童生徒の学習に向かう意欲を大事にし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。 3 挨拶と返事など礼儀正しさを定着させ、個に応じた自立活動の充実を図り、キャリア教育を推進する。 4 地域との連携を強化し、学習内容の定着や実践に向けた体験的な学習を行う。 5 保護者や関係機関とのつながりを強化し、教育的支援力の向上や地域におけるセンター的役割の拡充を図る。 6 職員が心身ともに健康に働くことのできる職場環境を作る。 		
担当	重点目標 (関連項目番号)	具体的方策	留意事項
小学部	各教科等の学習内容を踏まえた生活単元学習の充実を図る。 (1, 2, 4, 5)	生活単元学習の年間指導計画を見直し、各教科の内容を意識した授業となるよう、実践、検証を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部内における研究推進チームを立ち上げる。 ・段階的な学習も意識できるように、他部の実践内容を確認する。 ・年度末に反省アンケートを実施し、研究の成果を確認する。
中学部	挨拶や身だしなみを意識し、友達との関わり方や集団行動の約束などを通して、将来の自立に必要な力を身に付ける。 (1, 2, 3)	どのように指導するかを具体的に周知し、学級や学年を中心としてみんなで意識を高めあえるように指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第二次性徴について共通の方法で指導に当たる。 ・挨拶や身だしなみについて、意識してほしいことを分かりやすく指導する。 ・集団で行動するときの約束などは実態に合わせた方法で繰り返し指導する。 ・前向きな言葉かけで、それぞれの成長を喜びあえるようにする。
高等部	就労に向けて働く意欲、態度を高める。 (1, 2, 3, 4, 5)	働くことの学習である作業学習で、各班での見直しや校外作業学習の場についての検討やコミュニケーション、作業態度の指導を共通理解して実施できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・各班で話し合う時間を設け、共通理解して指導が行えるようにする。 ・生徒の実態に合わせた指導が行えるように各班で指導内容や方法、教材教具の見直しを行う。 ・校内で学習したことを校外で発揮する場の検討を行う。
総務部	正面玄関の展示の見直し、学校の特色が保護者や来校に伝わるようにする。 (4, 5)	現在展示してあるトロフィーや作業製品等の精選を校務部会等で行い、新たに展示する品物を選択、検討し、配置を考えていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動の成果を、保護者や地域住民に理解してもらえるような展示になっているかという観点で見直しをする。 ・夏休み前までに、展示品の選択をし、改修工事中は、倉庫の中の保管品や新しい作業製品などの整理をする。 ・令和3年度に新たな展示ができるよう目指す。
教務部	保護者との連携を図り、小・中・高で系統性のある支援を進める。 (2, 5)	保護者懇談の記録の様式を整え、小・中・高が同じねらいで懇談を進められるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部から高等部までの系統性を高められるように、保護者懇談で話す内容を具体的に示す。 ・現状の懇談内容や各部の記録用紙を確認したうえで、必要な懇談内容や項目を検討する。
保健体育部	児童生徒の安心安全を確保するため、緊急時の職員の迅速な対応を図る。 (2, 5)	緊急時に備え、職員が迷うことなく対応できるように、緊急対応カードを各所に配備しておく。	<ul style="list-style-type: none"> ・発見者と周囲の職員が落ち着いて対処できるように、各教室、特別教室等に緊急対応カードを設置する。 ・緊急シミュレーション訓練などを通じて、それぞれの職員が役割分担を確実に実施できるようにする。
自立活動	自立活動に関する資料や教材を整備し、自立活動の指導の充実を図る。 (2, 3, 5)	これまでの自立活動相談や自立活動だより、教材などを整理し、パソコン上で閲覧できるようにすることで、活用しやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の相談やたよりを項目ごと、内容ごとに整理する。 ・活用しやすいように、目次やリンクを付けるなど、工夫をする。 ・グループウェアで職員へ連絡をし、活用を促す。

指導部	いじめのない学校を目指し、未然防止、早期発見に努める。 (1, 2, 3, 4)	いじめ未然防止に向けて授業や集会、指導部だよりで啓発する。また、早期発見に向けてアンケートを実施し活用する。 日常の挨拶を重視する。	<ul style="list-style-type: none"> いじめ未然防止に向けて授業や部集会等で児童生徒が考えやすい内容を提示する。 友達との正しいかかわり方を学ぶために、発達段階に応じた「虹のつばさ」を活用する。 「こころとからだの健康アンケート」を実施し家庭や施設との連携を図る。 各学期に設定した「あいさつ運動」を通して、挨拶への意識の向上を図る。
	学校生活において、児童生徒、教職員の防災についての意識を高める。 (1, 2, 4, 6)	想定される災害時の状況を踏まえたより実践的な訓練を行う。 災害時の行動をイラストにし校内掲示する。	<ul style="list-style-type: none"> シェイクアウト訓練を5回に増やし、実際を想定し、職員、児童生徒に周知せずに行う訓練も設定する。 訓練時に防災ヘルメット、頭巾、またそれに代わるものを身に付け、安全かつスムーズに避難できるようにする。 各分掌での役割を明確にし、それぞれ準備を進めてもらうようにする。
進路指導	障害福祉制度に関する情報に日常的に接することができる環境を整える。 (2, 4, 5, 6)	「進路指導コーナー」に加え、各昇降口にあるパンフレット置き場に情報を追加し、福祉事業所や障害福祉制度について情報提供をする。	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒や保護者、教員が見やすい掲示とする。 情報の更新などについてグループウェア等を利用してアナウンスをする。 掲示する情報は公平なものとなるようにする。 詳細な情報は、進路指導コーナーで見られようにする。
研修部	初任者研修の資料の保管等を工夫し、研修内容の向上を図る。 (2, 3, 5, 6)	初任者研修での資料を整理し、研修内容の精選をするとともに、効率よく研修を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 過去の資料を整理し、一覧表を作成する。 必要な資料を領域別でファイルサーバーに保管する。 指導教員には、資料の活用と保管を伝える。
図書部	読書活動の楽しさを伝えるための環境を整える。 (2, 4, 6)	電子図書を導入し、その普及に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> データをサーバーに入力し、本校での電子図書の利用方法を作成する。 効果的な利用方法を伝達する。 利用状況をアンケートにより調査し、その普及に努める。
情報教育部	プログラミング教育を実践しやすい環境を整える。 (2, 4, 6)	他校の事例を紹介するとともに、使用されているアプリを整備する。	<ul style="list-style-type: none"> 小学校や特別支援学校での事例を探し、閲覧しやすい方法で紹介する。 夏期校内研修等を利用し、整備したアプリをプログラミング教育でどのように活用するのかを知らせる。 実践しやすい環境が整えられたか、特に小学部の実践状況から判断する。
支援部	支援を行うための情報や教材を充実させる。 (2, 4, 5, 6)	障害特性の理解や支援方法についての研修資料をiPadに作成する。 一般のSSTゲームを校内で活用できるように改善する。	<ul style="list-style-type: none"> 基本校外だが、校内でも活用できる内容とする。 研修内容について支援部で検討、試行を行う。 夏期校内研修や外部依頼の研修会、発達障害児等支援・指導検討会、巡回相談等で活用する。 SSTゲームを実際に授業で扱い、改善点等を検討する。
教頭	働きがいがあり、働きやすい職場環境をつくる。 (6)	各分掌業務内容の見直しを勧め、精選する。 組織の統廃合を検討し、教職員一人一人の業務を軽減する。	<ul style="list-style-type: none"> 部主事・分掌主任に業務内容を見直し、スクラップアンドビルトを推進する。 仕事の可視化・共有化・効率化を意識するように呼びかけ環境を整備する。 各分掌の業務内容を照らし合わせ、組織の改編を検討する。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な学校生活の充実 ICT機器を活用した教育活動の充実 	